



Title	第4講座の参加によって
Author(s)	射場本, 勘市郎
Citation	衛生工学, 3, 1-7
Issue Date	1959-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/36142
Type	bulletin (article)
File Information	3_1-7.pdf



[Instructions for use](#)

第 4 講座の参加によつて

射場本勘市郎*

(昭和34年8月28日受理)

By Joining the Chair of Sanitary
Engineering 4 (The Division of
Heating and Ventilating)

Kanichiro Ibamoto

北大工学部に全国に先がけて衛生工学科が新設されてから早くも2年半を経過し、明後年には才1回の卒業生を社会に送り出すために、その専門教育は着々と進みつつある。

すでに紹介済ではあるが、その後の異動をも含めて当教室の概況を次に報告する。

学生数：

昭和32年度入学 14名 専門課程（夏季に学外実習した）

昭和33年度入学 20名 今秋より専門課程を聴講

昭和34年度入学 20名 一般教養課程

すなわち正式の学年進行計画によれば来年度を以て完成する訳であるが、教育実施の都合もあり前例にならつて準備のため去る4月から筆者が着任し、早々に今秋から講義を始める運びに至つた。

才1講座および才2講座の上下水道部門はその歴史も古くて堅固な地盤を持った老舗の分野であり、従つて卒業生の就職する方面についても多分に明るい見通しが立て易い。

才3講座は主に水質に関する細菌学のおよび化学的な素養を与えて新しい感覚の技術者を育成すべき任務を持つて居り、従つて専ら Water Contact に関する限りは統一理念の体系に整えられている。

* 才4講座教授

講座の陣容：

	主 内 容	教 授	助 教 授	助 手	助 手
才1講座 S32・4	上 水 工業用水	林 猛 雄 T14 東大・土木	丹 保 憲 仁 S32 北大・土木・工修	森 貞 夫 S33 北大・農工	松 本 孝 子 S34 北大・薬学
才2講座 S33・4	下 水 放 射 線	野 田 経 六 T14 京大・土木	神 山 桂 一 S29 京大・土木	井 上 一 郎 S33 室工大・機械	砂 川 茂 夫 S34 室工大・土木
才3講座 S34・4	水 質 公衆衛生	桑 原 麟 児 S15 北大・医学・医博	那 須 義 和 S28 北大・化学	島 貫 光 治 郎 S18 東京薬専	詮 考 中
才4講座 S35・4	設 備 暖房換気	射 場 本 勘 市 郎 S15 東大・建築・工博	岡 垣 理 S24 北大・機械	未 定	未 定

(S34・10・1現在)

ところが才4講座にもなると幾分か趣を異にせざるを得ない。すなわち水処理の機械施設や屋内給排水などはWater Contactであり、塵芥の輸送や焼却などの取扱いはSolid Contact とも言えようが、むしろ内容の主体をなすべきものはAir Contact である。

さて我が国のみならず先進の米国などにおいても、衛生工学の母体は土木工学の水工の一部門であることは既成の事実であり社会の通念でもあるが、しかし他面において空気衛生の存在意義を過少評価すべきではない。現実にはHarvard 大学の修士課程において類似の組織を見出すが、学士課程で小規模ながらもAir Contact の部門が設置されたことは或は世界で最初ではないかと思われる。

衛生医学における空気関係はさておき、在来の暖冷房および換気技術者は主として機械工学の熱機関の一部で行われ、我が国のみは更に建築工学の設備関係からも供給されていた次才であるが、反面において両者からの真空地帯のような感もあつて、量的にも質的にも充分とは言えなかつた。

放射能や媒煙その他の塵埃または有害ガスによる空気の汚染など社会問題としての重要性もWater Contact に劣らないものがある現今において、新設の衛生工学科に才4講座が遅ればせ乍らも参加したことは相当に意義あるものと確信している。未だ開店の準備中にも拘らず、道庁からは媒煙防止

や興行場の換気指導に関する諮問があり、民間からは製錬所の鉛塵処理や製菓の燃油臭含有などの調査依頼が来るなど、これらは社会の要求の具体的な現われである。

文部予算の乏しさのために、我々の理想形態を半分に圧縮した程度の講座編成であるにも拘らず、そのまた一部を Air Contact に充てることに就いては、或は効率的な運営ではないとの批判もあり得るかと思われるが、幸いにして当教室では正しい理解の下に温く受け入れられたことを深く感謝する。

しかし実際問題として僅かに2年余の専門課程で上記のような多彩な内容のすべてを受講することは困難であり、また社会の実務に就くことを主眼として考えると中途半端になる危険性がある。このような理由から在学の後期に至って別表に示すAとBの専攻コースに別れる方式が採用されることになった。

この表に盛り込まれた教科内容を参照して頂けば、水道協会の系列各位からは後輩たちが伝統の構築技術を置き忘れずに衛生理論を身につけて来ることに満足願えるであろうし、衛生工業協会の傘下各社からは数名づつ乍らも芽生えて来る新しい型の技術者を心から迎えて載けるものと考え次才である。

さらに公衆衛生協会を加えた3者の支援によつて、研究団体としての日本衛生工学会が学足したり、北大と京大のみに止らず東大や九大などにも衛生工学科が誕生する日も遠くないであろうことを待望し、かくて大同団結した斯界の前途が隆々たることを祈つて筆を擱く。

必修科目

科 目	単 位	2		3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2		
工業数学才一	2	2						福島教授
構造力学	7	2	4	1				酒井教授
構造力学演習(乙)	(1)			(3)				酒井教授、芳村助教授
水 理 学	4	2	2					岸助教授

科 目	単位	2		3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2		
測 量 学 才 一	2	2						芳村助教授
測量学実習及び演習 (☑)	(1)		(3)					芳村助教授
コンクリート工学才一	2	2						横道教授
コンクリート工学才二	3		3					藤田助教授
コンクリート工学設計図	(1)		(3)					藤田助教授
電気工学大意才一	2			2				内藤助教助
電気工学大意才二	2				2			藤原助教授
材 料 学	2	2						丹保助教授、岡垣助教授
熱 力 学 概 論	2		2					岡垣助教授
伝 熱 概 論	2	2						射場本教授
分析化学概論	2	2						那須助教授
分析化学実験	(1)	(3)						那須助教授
都市計画概論	4			2	2			太田助教授
上水工学才一	4		2	2				林 教授
下水工学才一	4		2	2				野田教授
公衆衛生学	3	2	1					桑原教授
水質試験法	2		2					桑原教授、那須助教授
水質実験才一	(2)		(6)					桑原教授、那須助教授
疫学及び細菌学	3			3				桑原教授
暖房・換気	2		2					射場本教授
空 気 調 和	2			2				岡垣助教授
衛 生 行 政	1					1		
特 別 講 義	1							
衛生工学演習	(2)				(6)			衛生工学各教官
学外実習(30日以上)	(2)							
卒 業 論 文	(10)							衛生工学各教官
単 位 数	78							
時 間 数		18+(3)	20+(2)	14+(3)	4+(6)	1+(0)		

選 択 科 目 (A)

科 目	単 位	2	3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2	
上 水 工 学 才 二	2				2		林 教授
上 水 工 学 設 計 製 図	(2)			(3)	(3)		林 教授、丹保助教授
工 業 用 水	2				2		林 教授
水 理 測 定 法	2		2				丹保助教授
水 理 演 習	(1)			(3)			丹保助教授
下 水 工 学 才 二	1				1		野田教授
下 水 工 学 設 計 製 図	(2)			(3)	(3)		野田教授、神山助教授
産 業 廃 水 処 理	2				2		野田教授
河 海 汚 濁 防 止	2				2		神山助教授
放 射 線 衛 生 工 学	3				3		神山助教授
衛 生 生 物 学	1				1		桑原教授
水 質 化 学	2			2			那須助教授
水 質 実 験 才 二	(1)			(3)			桑原教授、那須助教授
屋 内 給 排 水	2				2		射場本教授
塵 芥 処 理	1				1		岡垣助教授
土 質 力 学 (乙)	2				2		北郷助教授
土 木 地 質 学	1			1			石橋教授
河 川 工 学	2			2			岸助教授
土 木 施 工 法	2			2			古谷構師
道 路 工 学 (乙)	2				2		板倉教授
有 機 化 学	2					2	高田助教授
鉄 骨 構 造	3					3	大野教授
鉄 骨 構 造 演 習	(1)					(3)	柴田助教授
原 子 核 工 学	2			2			小沢教授
工 業 数 学 才 二	2		2				福島教授
物 理 学	3	1	2				池田助教授

科 目	単位	2		3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2		
工 業 経 済	2					2		鎌田教授
寒 地 工 学	2					2		林 教授
単 位 数	52							
時 間 数		1	6	9+(12)	20+(6)	9+(3)		

註： 昭和34年10月現在(A)コース履修学生 9名

選 択 科 目 (B)

科 目	単位	2		3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2		
屋 内 給 排 水	2				2			射場本教授
空 気 浄 化	1				1			岡垣助教授
建 築 設 備 概 論	2				2			射場本教授
塵 芥 処 理	1				1			岡垣助教授
暖 房 ボ イ ラ	1			1				岡垣助教授
衛生設備設計製図才一	(2)			(6)				射場本教授、岡垣助教授
衛生設備設計製図才二	(2)				(6)			射場本教授、岡垣助教授
伝熱及熱力学演習	(1)			(3)				射場本教授、岡垣助教授
建 築 構 造 一 般	4			4				柴田助教授
送風機及気体圧縮機	2				1	1		阿部教授、有江助教授
冷 凍 及 冷 蔵	2				1	1		齊藤教授
燃 烧 学	2			2				深沢助教授
機械工学大意(甲)	1			1				深沢助教授
機械工学大意(乙)	1			1				有江助教授
機械工学大意(丙)	2				2			半沢助教授

科 目	単位	2		3		4		担 当 教 官
		2	1	2	1	2		
機 械 工 学 大 意 (丁)	1				1			土肥助教授
照 明 及 電 熱	2					2		坂本教授
騒 音 処 理	2					2		堀江助教授
保 温 防 湿	2					2		射場本教授
大 気 汚 染	2				2			桑原教授
放 射 線 衛 生 工 学	3				3			神山助教授
水 理 測 定 法	2		2					丹保助教授
工 業 計 測 学	2					2		池田助教授
工 業 数 学 才 二	2		2					福島教授
物 理 学	3	1	2					池田助教授
工 業 経 済	2					2		鎌田教授
寒 地 工 学	2					2		林 教授
単 位 数	51							
時 間 数		1	6	9+(9)	16+(6)	14		

選択科目は、A、Bコースのいずれかを選び、それぞれのコースより30単位以上を修めること。

(但し、設計製図、演習を3単位以上含むこと)

註：昭和34年10月現在(B)コース履修学生 5名